

ながいき農業だより

発行 長生農業事務所 茂原市茂原1102-1・長生農業改良普及事業協議会
 編集 長生農業事務所改良普及課 TEL 0475(22)1771 FAX 0475(25)2061
 URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei/>



本人(中央)と後継者の雄基さん、良平さん

今回は白子町で水稲、野菜を栽培している鵜澤ファームの鵜澤一正さんを紹介します。
 鵜澤さんは昭和五十年に親元就農で農業を開始しました。当時は水稲1haとトマト1000坪を栽培していましたが、その後はガーベラなど時代に合わせて作物を切り替えながら規模拡大を続けてきました。もともとは家族経営でしたが、栽培面積が広がるにつれて

元気な長生農業人 その四十八

親から子へ

確かな農業技術の継承と

発展を目指して

白子町 鵜澤ファーム 鵜澤一正さん

雇用も行い、その後、後継者の雄基さんと良平さんも就農しました。

〈経営の概要〉

現在の経営規模は水稲を30ha、たまねぎやブロッコリーなどの露地野菜を1ha、トマトやキュウリなどの施設野菜は2000坪となつていきます。労働力は家族四名、パート八名です。昨年は主食用米でコシヒカリ、ふさおとめ、ふさこがね等五品種、もち米一品種を栽培しました。また、ちばエコ米など環境に配慮した取り組みも行っています。

現在は直売所や長生産直に出荷しており、「直売所や産直は自分の判断で比較的自由に販売できるため、出荷時期を分散しやすい」と話します。

〈今後の展望〉

鵜澤さんは「今後も無理のない範囲で農業を続けていきたい」と



直売所に出荷する商品

話します。これまで積み重ねてきた土台があるからこそ、「これからは息子たちが自分たちの思う農業に挑戦してほしい。そのために父親としてフォローしながら、自由に挑戦できる環境を整えていきたい。」とのこと。鵜澤さんは作業ひとつひとつに強いこだわりを持ち、丁寧に取り組んでいます。親から学んだ技術を大事にしつつ、そのこだわりを後継者にも伝え、次の世代へ確実に受け継がれていきます。家族が力を合わせて農業を営む姿が印象的で、今後のさらなる活躍が期待されます。

(改良普及課)

トマトの病気 まん延防止に ご協力ください

【はじめに】

昨年来、トマト・ミニトマトにおいて全国的に害虫「コナジラミ類」の多発生が続いています。この害虫はトマト・ミニトマトに甚大な被害を及ぼす病害「トマト黄化葉巻病」などの原因ウイルスを媒介するため、発生を未然に防ぐ必要があります。

【トマト黄化葉巻病とは？】

本病はタバココナジラミが媒介するウイルス（TYLCV：Tomato yellow leaf curl virus）によって発生する病気です。病気の症状は、トマトの生長点付近が黄化して葉が巻き、やがて開花してもほとんど結実しなくなります。

本害虫および関連ウイルス病害は、販売用に限らず、栽培されているトマト・ミニトマトすべてにおいて発生する可能性があり、これら害虫や発病した株が次の感染源となります。最も重要な対策は、地域が一体となり、コナジラミ類の発生量を抑えることです。

【家庭菜園でトマトを栽培する際 のお願い】

現在、販売を目的として栽培している農家は、防除対策を講じていますが、トマト黄化葉巻病による被害の発生は続いており、産地の存続に関わる状況です。

家庭菜園などにおいて、トマト・ミニトマトを栽培している皆様におかれましては、コナジラミ類の発生にご注意いただき、防除を心掛けていただくとともに、特に黄化葉巻病の発病が疑われた場合には、抜き取り処分していただきますようお願いいたします。また、雑草も発生源となるので、除草を心掛けてください。

（改良普及課）



黄化葉巻病の症状（左） タバココナジラミ（右）

「苗半作」の 水稻育苗

水稻栽培では「苗半作」と言われるほど、良い苗を育てることが重要です。近年は育苗期間の天候が不安定であり、「例年に同じ」作業でよいのか今一度考えてみましょう。

○種子消毒

種子消毒は必ず行いましょう。消毒方法は化学合成農薬、微生物農薬と温湯消毒があります。基本的には安定した防除効果を発揮する化学合成農薬を使用しましょう。浸漬処理では、希釈薬液と種子の容量比を1対1とし、しっかりと種子を薬液に沈める、発芽不良を防ぐため薬液の水温10℃以上を確保する、薬液を使いまわさない等の点に注意しましょう。

採種ほ場の近隣では特に「ばか苗病」の発生を防ぐためDMI剤（例：ヘルシードTフロアブル、モミガードC・DF、テクリードCフロアブル）を使用基準に従って処理することが推奨されています。

○浸種

水温が10℃より低いと発芽不良、15℃より高いと細菌性立枯

病菌やばか苗病が増殖しやすくなります。浸種一日目の温度に特に注意し、水温の低下や上昇を防ぐため、浸種を行う環境に気を付け、水温を測りましょう。その年の気温で積算水温の目安となる100℃を満たす日数は変動します。水温を毎日測定して浸種完了時期を推定しましょう。

○出芽

苗箱を育苗器で保温し出芽させる加温出芽、苗箱をハウス内に置き、保温資材で被覆する無加温出芽の二つの方法があります。いずれの方法においても、鞘葉が床土から5mm程度出たら終了となり、加温出芽で二日、無加温出芽で五日程度かかります。近年は、播種時期の温度が不安定で低温が続き、出芽が悪い場合に、加温や被覆する期間を「過度に」延ばすと苗の徒長を助長する他、病害も発生しやすくなります。育苗器の調子を事前に確かめておくことや適切な被覆資材の選択を行い、出芽期間が長期化するのを回避しましょう。

育苗は作業ごとに発芽不良の防止や病害虫対策のため、繊細な管理が必要となります。毎年、気候が変わりますが、安定した育苗ができるよう適切な温度管理をしましょう。

（改良普及課）

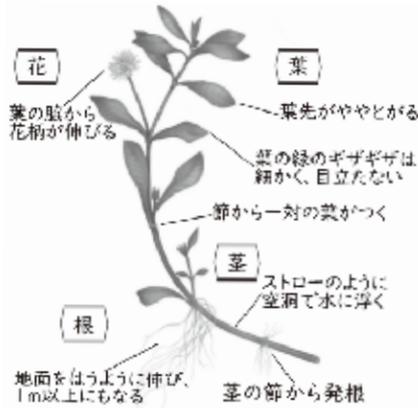
「ナガエツルノゲイトウ」に ご注意ください!

特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」が、河川や用水路を介して、県内で発生区域が拡大しています。長生地区でも、赤目川、南白亀川、一宮川などで確認されています。

定着すると駆除が困難な雑草で、生態系や農業へ悪影響を及ぼします。

●「ナガエツルノゲイトウ」とは

南米原産ナデシコ目ヒユ科の多年草です。水路やため池、水田などの水辺、農道、畦畔、畑などの陸地にも生え、特に日当たりのよい水辺では大群落を形成します。



(図 千葉県生物多様性センター作成)

【特徴】①再生力が大きく、数cmの茎断片からも容易に発根します。②拡散力が大きく、茎は千切れやすく、水に浮いて拡散します。③侵略性が大きく、乾燥に強く、畑地などにも侵入します。

●駆除・防除の基本的な考え方

①早期発見・早期駆除しましょう。②早期の初期、群落が小規模であれば、簡単に対策を行うことができます。

②拡大力・再生力が非常に強く、わずかな断片からも再生する可能性があるので、根絶まで粘り強く対応しましょう。

③周辺への拡散を防止しましょう。



給水栓にネットを設置

用水路を介して農地にも侵入する可能性もあります。給水栓の口にネットを設置するなど対策をしましょう。

また、刈払機を使った除草は、茎や根の断片を飛散させる可能性もあるので注意が必要です。

●困ったとき

駆除や拡散防止のための補助事業もありますので、早めにご相談ください。
(指導管理課)

農福連携 ただいま実践中

「農福連携（ノウフク）」は、障がいのある方が農作業などで活躍することにより、農業分野では働き手の確保につながり、障がいのある方にとっては就労や生きがいづくりの場になるなど、双方にさまざまなメリットが生まれる取組です。しかし、農福連携の認知度はいまだに低いこともあり、取組事例も少ない状況です。

そこで県では、農福連携の仕組み構築と認知度向上を目的に、農業者が福祉事業所等へ農作業を委託する取組の実証試験（お試しのウフク）を行っています。今年度、長生管内では、JA長生の調整の下、白子町の新規就農者のハウスでトマトの下葉かき作業を行いました。

抑制トマト栽培期に現地に伺うと、作業者は、始めにハウス内で作業内容の説明を受けた後、次々に下葉かき作業に取り掛かっていました。一か月前に作業を経験したこともあり、慣れてくるにつれて作業がスムーズに進んでいました。

トマトの下葉かき作業は新たな取組でしたが、JA長生では、こ

れまで、タマネギの収穫作業、ネギの出荷調製作業などでも実績があり、受け入れた生産者からは「作業効率、出来具合等が想定していた以上だった」などの評価をいただいています。

なお、農福連携の実施に当たっては、作業前の生産者・福祉事業所・関係者による丁寧な打ち合わせや、作業環境の整備などが必要となるなどのポイントも明らかとなってきました。

県では、農福連携に関心のある農業者と福祉事業所をマッチングする実証試験、農業・福祉関係者の相互理解を深めるセミナーなどを通して農福連携の普及や展開を引き続き支援してまいります。

(企画振興課)



ハウス内での事前説明の様子

**千葉県
指導農業士・農業士
新規認証者の紹介**

令和7年度千葉県指導農業士・農業士の認証式典が十一月五日に千葉市・プラザ菜の花で開催されました。

県では農業青年が地域社会の構成員としての誇りと自覚の中で農業者としての意欲と社会的評価を向上させるために「農業士」、また農業後継者に対する指導者として「指導農業士」を認証しています。

長生地区からは、昨年度は農業士に長谷川真澄氏(長生村)、本年度は指導農業士に秋場健次氏(一宮町)、農業士に富塚誠氏(一宮町)が認証されました。

【指導農業士】

秋場 健次氏



秋場氏は一宮町で野菜(いちご、メロン)の経営を行っています。特にいちごについては、管内のいちご生産者で組織される「長生いちご研究会」

「ご研究会」に所属し、過去には会長を務める等、研究会の発展に寄

与し、また会の活動でもご自身で得た栽培知識等を他の生産者に惜しみなく指導する等、長生管内のいちご生産者のリーダーとして活躍しています。

【農業士】

**長谷川 真澄氏
富塚 誠氏**

長谷川氏は長生村で、富塚氏は一宮町で大玉トマトを栽培しています。二名とも、栽培期間が八月から翌年七月までと長く、季節に応じて栽培管理を工夫し、安定して高品質なトマトを出荷しています。現在、JA長生施設野菜部会の理事も務めており、栽培試験や資質向上に積極的に取り組み、今後の長生地域を担う中心的な人材としての活躍を期待されています。



長谷川 真澄氏



富塚 誠氏

(改良普及課)

**長生YPC(ヤングパワーズクラブ)
新規会員募集中!!**

長生YPC(ヤングパワーズクラブ)は経営者としての資質向上を目的として活動している長生地域の20~40代の若手農業者グループです。

主な活動は、勉強会や視察研修、月に1回の定例会です。令和7年度は、直売に力を入れている多品目野菜農家と、輸出を行っている先進的な水稲農家の視察を行いました。また、長生農業経営体育成セミナー生との交流、千葉県青年農業者会議の実行委員としての運営、長生農業フォーラムに参画するなど地域活動にも取り組んでいます。

興味を持たれた方は、お気軽に会員または長生農業事務所にお声掛けください。(改良普及課)



先進農家視察の様子

**令和8年度
長生農業経営体育成セミナー
受講者募集!!**

農業事務所では、概ね45歳未満の新規就農者を対象とし基本・専門・総合と3年間で段階的に研修を行う、「長生農業経営体育成セミナー」を開催しています。

セミナーでは、農業を営む上での基本的な技術や経営知識の習得と仲間づくりを目的に、年間8回程度研修会を行い、農業経営者としての資質向上をめざしていきます。

講義や実習の他、先進的な農業者の視察、指導農業士や農業士等の先輩農業者との交流会、品目に関する専門研修、相互訪問など、受講者の方の希望も取り入れながら、多彩なカリキュラムを用意しております。

現在、次年度(令和8年5月開講予定)の受講者を募集しています。受講希望の方の方は、農業事務所改良普及課までお問合せください。

(改良普及課)



市場視察研修